

2016年11月度のトピックス

11月13日

晩秋の変則ダブルは日没との勝負



秋の夕暮れはつるべ落としと言われるが、この時期の変則ダブル終盤は日没との勝負。この間3試合目の終盤にバックスクリーン横に沈む太陽に投手の球が全く見えなくなることも。またこの日は夕刻から曇ったが、暗くなってきて打球処理に不安が生じた。

近隣との関係で9時までは声を出せず、第1試合の開始を9時半からとしているが、この間ホームの立命館宇治が9時前に「声なしシートノック」を行い、また5回のグラウンド整備も割愛。そして昼休みの短縮、コールドゲームの採用などして何とかこの日も最後までできてた。

11月13日

ウエイトトレーニングを施設を倉庫へ



室内練習場横の仮設テントに置いていたウエイトトレーニングのバーやプレートは長年雨風にさらされて腐食が激しくなってきた。金城コーチから「今のままでは危険だし、正しいトレーニングに支障をきたす」と、今回部の予算から新規に器具を購入。昨日届いた器機を金城コーチ、渡辺トレーナーと試合に出していない1年生部員で組み立てた。

従来のテント下ではなく、倉庫の中を一部整理し、スペースを確保。練習後には里井監督や金城コーチから使用上の注意が部員に確認された。

11月10日

3ヶ月予定表をグラウンド2か所に設置



チームの試合予定はあらかじめ部員や保護者に知らせてあっても、急な変更もありうる。保護者には会長から連絡網を回してもらおうが、むしろ後手になるのが部員。そこで下足箱横に「3ヶ月予定表」のホワイトボードを設置。試合予定だけでなく、遠征の出発時間、学校行事やアスリート食の有無など一目瞭然。

また試合の際には1塁側土手上に多くのファンが詰めかけるが、今までは半年ごとにプリントをポストに入れ、「各自ご自由に」であった。今回同じものを1塁側フェンスに掲示。こちらは試合予定のみ

である。11月20日がホーム最終戦と明示された。

[硬式野球部 TOP PAGEへ](#)

2016年10月度のトピックス

10月29日

洛南交流試合 A. Bともに3戦全勝



洛南交流戦の予選リーグ最終戦が行われた。土曜日の14時半プレーボールのため、日没が心配されたが何とか終わることができた。この日はAチームの最終戦。これでA. Bチームともに予選リーグを終えたことになり、ともに3戦全勝。特にAチームは春先の練習試合の兼ね合いもあり、部長からは1位通過の命令が。終盤までもつれたり、9回2死走者なしまで追い込まれたりとしたが、かろうじて勝った。

Bチームは「試合にならないのでは。全敗でも経験さえ積めばOK」ということであったが、何とか勝ち切れた。

10月25日

大きな身体づくり、アスリート食の再開



2年生の幹部部員から「この冬にさらに身体を大きくしたい。アメリカンフットボール部がやっているアスリート食を硬式野球部でも取り入れてほしい」と要望があった。4年前に当時の顧問の先生たちの尽力で導入されたことはあったが、様々な問題が発生し、取りやめとなった経緯がある。今回は過去の失敗を繰り返さないように全部員に事前に厳しく通達し、10日に行われた保護者会で了承を得て、この日初めてアスリート食を口にした。1回650円で盛り付けはセルフ。白米は一人に2.5杯。足らなければさらに追加としなければならないが、部員は「胃袋限界」という声が多かった。

10月22日

新戦力の登竜門となるか、洛南交流試合



晩秋の恒例「洛南交流試合」が始まった。今年もA. Bの2チーム参加で、例年のことながら、この交流試合が新戦力発掘の場となっている。

この日のBチームは京都八幡と対戦。三室戸グラウンドではAチームが変則ダブルで行われてるため、バス移動での対戦となったが、今まで紅白戦でアピールしてきた力がユニフォームの異なる相手にどれだけ発揮できるか。スタッフは秋のメンバーそのままを春に起用するつもりは毛頭なく、新戦力台

頭でチーム内競争が活性化することを期待している。

10月20日

猪砂主将の慶応準硬式が15希ぶり完全優勝



硬式野球部OBで慶応大学へ進学し、昨秋より主将を務めていた猪砂OB率いる準硬式野球部が、東京六大学準硬式野球秋季リーグで7年半、15季ぶりの完全優勝を果たした。

ほぼ全試合にピッチャー、ショートとして出場し、場内アナウンスでは出身高校も放送されるため、毎試合「立命館宇治高校」と流れた。高校ではレギュラーを完全に勝ち取るにまでは至らなかったが、卯瀧・里井の両氏は「学年が上がるにつれて良くなっている」と大器晩成を示唆していた。結局、この学年では最も息の長い現役選手となった。

※写真は胴上げされる猪砂雄介OB

硬式野球部 TOP PAGEへ

2016年9月度のトピックス

2016年度秋季京都府高等学校野球大会 速報

9月24日

学園祭運営に全部員で裏方として貢献



学園祭が行われ、硬式野球部1.2年生が全員が「受付」「スリッパ販売」と裏方として貢献した。昨年までと学園祭のシステムが変更となったため、生徒部から人数の多い運動系クラブに様々な役割の依頼があり、硬式野球部も快く引き受けた。各部員のボランティア時間は30分間。

前々日に秋季大会で敗れたため、どの部員も「元気はつらつ」とはいかなかったが、決められた時間にはきっちりと持ち場に。支える先生方も「さすがですね」とお誉めの言葉を頂いた。

9月11日

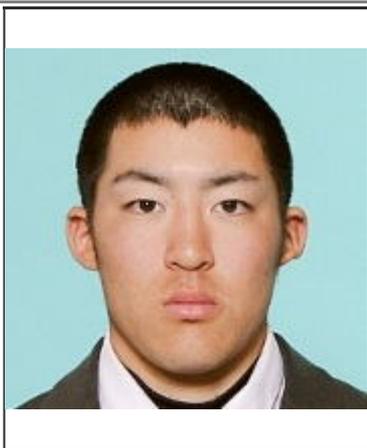
日本選手権出場報告へ、二人の元主将



社会人野球の名門・大阪ガスで外野手として活躍する二人のOBがグラントに挨拶に訪れた。社会人野球日本選手権の出場が決定し、「後輩たちにも頑張ってもらいたい」と差し入れ持参。写真左は藤原大輔OBでセンバツ初出場時の主将で4番。写真右は古川昂樹OBで2度目のセンバツ出場時は2年生で4番。最上級生では主将に抜擢され、大学でも主将。そしてリーグ戦では春夏連続優勝に加え、春は六冠とタイトルを総なめ。歴代最もキャプテンシーのあったふたりがこのように後輩の激励に訪れて貰ったことは本当に心強い。

9月8日

見事!! 外村望OBが司法試験に現役合格



硬式野球部OBで立命館大学法学部卒業後、京都大学法科大学院(ロースクール)で学んでいた外村望OBが、難関の司法試験に現役で一発合格を果たした。発表の翌日に部長宛に電話で報告があった。

高校時代は主務兼務で、向上心にとみ、授業では選択していないドイツ語を寸暇を惜しんで独学していた。

「これから1年間は実務があり、その後は大阪か京都を拠点に弁護士として働きたい」とこれからのビジョンを語ってくれた。

※写真は高校時代の外村OB

平成28年度

秋季京都府高等学校野球大会 速報

2次戦

9月22日(木祝) 1回戦 対乙訓 (太陽が丘球場)

投手陣、「負の連鎖」止まらず

○	乙訓	002 132 5=13	
●	立命館宇治	200 010 3=6	(7回コールド)
		【乙】川畑、富山-牧	
		【立】玉田、栗山-藤原	
		▼本塁打 横山(乙)	
		▼2塁打 吉田2(乙)藤原、寺田(立)	

【寸評】

立命館宇治は初回先頭の長谷川の中前打、2番・今堀の四球を送った後、4番・藤原が先制の2点タイムリーを放った。

先発の玉田は立ち上がりからストレートの伸びがあり、変化球も切れて、2回を6人で退けた。しかし3回に先頭打者を死球で出すと、2死までこぎつけたが、初安打を左越えに打たれ、リズムを崩した。以降、毎回先頭打者を出塁させ、防戦一方。何とか僅差で後半に持ち込みたいというバックの願いはもろくも崩れ去った。

守備でも記録に表れない失策が多々あり、投手陣を含めたディフェンスの再構築が急務の課題となった。



※写真は3打点を放った藤原彦貴(2年)

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	玉田 大剛	2	泉ヶ丘東 (大阪)	ヤング 大阪狭山
2	捕	藤原 彦貴	2	中央 (福井)	ボーイズ 鯖江
3	一	井上 光志郎	1	大庄 (兵庫)	シニア 甲子園
4	二	荒木 耀介	2	二名 (奈良)	シニア 奈良西
5	三	今堀 寛基	2	立命館宇治	中学野球
6	遊	長谷川 弘	2	田辺 (大阪)	ヤング 堺イーグルス
7	左	太田 東吾	2	東生野 (大阪)	ボーイズ 大阪八尾
8	中	寺田 泰清	2	御所 (奈良)	ボーイズ 奈良葛城
9	右	村井 崇祥	2	勝山 (大阪)	ボーイズ 忠岡
10	投	栗山 大輝	2	平城西 (奈良)	ヤング ヤングビクトリー
11	投	卜部 大輝	1	立命館宇治	中学野球
12	捕	岩見 俊哉	2	立命館宇治	中学野球
13	捕	福井 開人	2	斑鳩南 (奈良)	ボーイズ 志貴
14	内	大住 優賀	1	城陽	ボーイズ 京田辺
15	内	西 祥太郎	1	桜井西 (奈良)	ボーイズ 奈良葛城
16	内	森山 樹	2	四條畷学園 (大阪)	ボーイズ 生駒
17	外	大西 大賀	2	立命館宇治	中学野球
18	投	秋森 晃希	1	枚方 (大阪)	シニア 高槻
19	外	水谷 祐介	2	豊中九 (大阪)	その他 ニューヤンキース
20	外	大井 貴之	2	立命館宇治	中学野球

1次戦

9月11日(日) 敗者復活決勝戦 対鳥羽 (立命館宇治三室戸G)

番 玉田、中盤以降「らしさ」発揮し、粘投

- 立命館宇治 102 011 001=6
 - 鳥 羽 200 001 000=3
- 【立】玉田-藤原
【鳥】鳥部-牧
- ▼3塁打 上山(鳥)寺田(立)
▼2塁打 小林(鳥)藤原、玉田(立)

【寸評】

立命館宇治は敗者復活戦を勢いよく勝ち上がってきた鳥羽を接戦で退け、2年ぶりの2次戦進出を果たした。

初回1死から2番・今堀が出塁すると、4番・藤原が右翼線へ2塁打を放ち先制。逆転された3回には2死1塁から5番・寺田が左中間を抜き、続く6番・太田も三遊間を抜いて逆転した。

5回には2死2塁から寺田が中前へ弾き返し、6回にも1死2塁から今堀が右翼線に落とした。

先発した玉田は3回まで毎回先頭打者を出す投球で5安打を打たれたが、制球が定まった4回以降は6回で被安打3と粘投して、意地を見せた。

スコア的には接戦に見えるが、残塁は実に15を数え、序盤～中盤のチャンスを確実にものにできていれば、もっと楽な展開に持ち込めた試合であった。



写真は2点目と2点目のタイムリーを放った寺田泰清(2年)

9月3日(土) 決勝戦 対東山 (立命館宇治三室戸G)

番 追いついても、勝ち越しても...投手陣炎上

○	東山	020 100 121 2=9
●	立命館宇治	002 011 201 0=7 (延長10回)
		【東】 小山、金和-大杉
		【立】 玉田、栗山、秋森-藤原
		▼3塁打 村井(東)
		▼2塁打 村井、田中、増田(東)藤原、大住(立)

【寸評】

ともに12安打ずつ放った打撃戦は延長10回表1死1.2塁から左翼線へ勝ち越し2塁打を打たれ、突き放された。

立命館宇治は2点を先制されたが焦ることなく相手投手陣を攻め、3回には2死2塁から2番・今堀のタイムリー、3番・寺田の内野安打で同点。1点ビハインドの5回には2死2塁から4番・藤原の中前打で追いついた。

また9回表に勝ち越し点を奪われた裏は2死2塁から6番・井上が中前に同点タイムリーを放つなど粘り腰は見せた。

今大会軸にすえる玉田、栗山が同点・勝ち越しの場面となると、次の相手の攻撃で先頭打者を出す悪循環。3投手10イニングで先頭打者を打ち取ったのは2回のみで、バックは3試合連続無失策で盛りたてているだけが、投手陣がこの低迷では上位進出は厳しいと言わざるを得ない。



写真は9回2死から同点タイムリーを放った井上光志郎(1年)

8月28日(日) 2回戦 対西京 (立命館宇治三室戸G)

初回から毎回得点、14安打でコールド

●	西京	000 00=0
○	立命館宇治	343 3x=13x (5回コールド)
		【西】加藤、岩田-芦田
		【立】玉田、栗山-藤原
		▼2塁打 井上(立)

【寸評】

立命館宇治は初回、1死2塁から3番・寺田の内野強襲安打が敵失を誘い先制すると、5番・太田が右前適時打、7番・荒木が犠飛を上げて3点を先制した。続く2回も押し出しと4番・藤原の犠飛、5番・太田が1塁線を破って合計4得点をマーク。3回には3安打、4回には長短5安打を集中し、決して攻撃の手を緩めることなく毎回得点で5回コールドとした。

昨日に続いて先発した玉田は3回には三者連続三振を奪うなど力投し、4回を0に封じ込めた。



写真は3安打を放った村井崇祥(2年)

8月27日(土) 1回戦 対城陽 (立命館宇治三室戸G)

序盤から猛攻で5回コールド発進

●	城陽	000 00=0
○	立命館宇治	202 42=10x (5回コールド)
		【城】椎木、荒木-込山
		【立】玉田-藤原
		▼本塁打 長谷川(立) ▼3塁打 井上(立)
		▼2塁打 中前(城)

【寸評】

立命館宇治は立ち上がりから城陽投手陣に襲いかかり、序盤から加点し、5回コールドで勝利を収めた。

初回は1死2.3塁から4番・藤原の内野ゴロで先制し、5番・太田の内野安打で2点目。3回には1死から4連打で2点。4回には1死から1番・長谷川が右越えにソロ本塁打

を放ち、なおも失策と四球で満塁とした後、6番・井上が左中間へ3塁打を放ち、走者を一掃した。

5回には無死2.3塁から2番・今堀が中前へ弾き返し、2点を加えてコールドとした。

先発した玉田は完璧ではなかったが、被安打2で0封した。



写真は3点目のタイムリーを放った太田東吾(2年)

登録メンバー

背番号	守備	名前	学年	出身中学	出身チーム
1	投	玉田 大剛	2	泉ヶ丘東 (大阪)	ヤング 大阪佐山
2	捕	藤原 彦貴	2	中央 (福井)	ボーイズ 鯖江
3	一	井上光志郎	1	大庄 (兵庫)	シニア 甲子園
4	二	荒木 羅介	2	二名 (奈良)	シニア 奈良西
5	三	今堀 寛基	2	立命館宇治	中学野球
6	遊	長谷川 弘	2	田辺 (大阪)	ヤング 堺イーグルス
7	左	太田 東吾	2	東生野 (大阪)	ボーイズ 大阪八尾
8	中	寺田 泰清	2	御所 (奈良)	ボーイズ 奈良葛城
9	右	村井 崇祥	2	勝山 (大阪)	ボーイズ 忠岡
10	投	栗山 大輝	2	平城西 (奈良)	ヤング ヤングビクトリー
11	投	秋森 晃希	1	枚方 (大阪)	シニア 高槻
12	捕	岩見 俊哉	2	立命館宇治	中学野球
13	捕	福井 開人	2	斑鳩南 (奈良)	ボーイズ 志貴
14	内	大住 優賀	1	城陽	シニア 京都木津川
15	内	西 祥太郎	1	桜井西	ボーイズ 奈良葛城
16	内	堀江 晃生	1	立命館宇治	ボーイズ 京田辺
17	外	水谷 祐介	2	豊中九 (大阪)	その他 ニューヤンキース
18	外	大西 大賀	2	立命館宇治	中学野球
19	外	大井 貴之	2	立命館宇治	中学野球
20	投	大中 亨佑	2	笹原 (兵庫)	ボーイズ 大淀

2016年8月度のトピックス

8月24日

全36試合を消化し、いよいよ秋季大会へ



今年の夏休みは猛暑の中、組まれた練習試合36試合が全て行われた。

特に東海関東遠征前日からの5日間10試合をはじめ、過酷な部分もあったが、投手陣に大きな故障はなく乗り切れた。戦績は27勝8敗1分。ダブルで同一チームに連敗したのは桐光学園(神奈川)と大手前高松(香川)。西脇工(兵庫)、箕島(和歌山)、東海大市原望洋(千葉)、比叡山(滋賀)、関大北陽(大阪)、香川西(香川)などに勝った戦績が良い意味での自信となるか。

注目の秋季大会は今週末の土曜日に開幕する。

8月14日

2年・玉田が比叡山相手に無安打無得点



東海関東遠征では肝心な場面で逃げ腰になり、里井監督から連日は厳しい言葉をかけられてきた2年生・玉田大剛が、帰京直後の比叡山との練習試合第1試合で相手打線を無安打無得点に抑え、見事ノーヒットノーランを達成した。バックも無失策で好投に応え、許した走者は四球になる3人のみ。

夏の準々決勝ではシード京都廣学館を相手に好投し、新チームでは当然エースと期待されてきたが、まだまだ「エース」の称号を手にするには早い。第2試合では先発した1年生がこれまた好投し、エースの座争いはまだ続く様相だ。

8月14日

熱中アラームを常設し、時間ごとに確認



近年の真夏の灼熱は異常である。連日のようにニュースでは熱中症による悲しい事故を報じている。指導者は経験で科学的根拠もなく、「これぐらいなら大丈夫」と判断してしまい、最悪のケースを招くことも。

夏休みを前に学校は「黒球式熱中症指数計」を購入し、広野キャンパスだけでなく、三室戸グラウンドにもふたつ。ひとつはバックネットに吊されており、もう一つは遠征用。液晶モニターには「ほぼ危険」「嚴重注意」などのメッセージが出る。当然注意レベルになれば指導者は全部員の様子を細かくチ

エックし、水分補給時間も設定されるようになった。

8月11日

東海関東遠征4 スタッフの願いを快く



遠征の際にスタッフが一番悩むのは部員のユニフォーム洗濯。ホテルでにコインランドリーはあっても部員で何時間も独占するわけにはいかず、部員は仕方なくホテル近隣のランドリーへ行くが、時間を大きく割かれて深夜になることも。最近の子は前日着たものをそのまま着用することはできない。

今回は悩み抜いた末にの、試合終了後すぐに洗濯ネットにユニフォームを詰め込み、保護者にランドリーでの洗濯をお願いし、次の宿泊地へ届けて貰うことに。これで部員は食後もホテル自室で学習に専念できた。

8月10日

東海関東遠征3 初の完敗が成長へと繋がるか



東海関東遠征では高いレベル対戦相手に五分の成績であるが、この日は東京のトップレベル東海大菅生に完敗を喫した。新チーム以降、負けることはあっても、何とか相手に食らいついていたが、この日はエースと期待したい玉田が登板しながらも、立ち上がりから失点を重ね、デフェンスは大きく乱れて、粘りが自慢の打線も沈黙した。温厚な里井監督はこの日に向けて調整させていた玉田の不甲斐ない投球に「お前がエースではこのチームは無理」と珍しく怒り心頭。この敗戦がチームの大きな成長へと繋がるか。

8月9日

東海関東遠征2 横浜宿泊はスーパー銭湯??



静岡での試合を終え、横浜入り。横浜の宿泊施設は万葉倶楽部という大型スーパー銭湯の宿泊施設。食事も今までのバイキングとは異なる。全員がそろって「いただきます」「ごちそうさまでした」というという光景は合宿ならでは。

もちろん館内の大浴場・サウナ施設は部員たちも使用でき、大喜び。ロケーションも「みなとみらい」に面しており、大浴場からの景色も抜群。全員で大きなお風呂にというのもまた合宿らしい。

8月8日

東海関東遠征1 いきなりアウェイの厳しさ実感



東海関東遠征がスタートした。48名全員によるバス1台での集団行動、連日ダブルの試合など、毎年チームの今後を計る大切な遠征合宿であるが、いきなりアウェイの試練に面した。

バスでの到着後に短時間での試合開始、勝手のわからないグラウンドなどいつもとは異なる状況に第1試合はスルスルと敗退。これまで12勝1敗1分と圧倒的勝率であったが、いきなりの敗戦スタートとなった。第2試合はコールドで勝ったが、すぐにバスでホテルへ移動。よい経験となった。

8月7日

3年生8名が大学硬式野球部へ体験入部



毎年選手権京都大会が終われば、大学で硬式野球を続ける者は数日以内に申し出ることになっている。今年名乗りを上げたのはベンチ入りしていた8名で、この日部長の引率で大学校硬式野球部へ体験参加した。後藤監督にじっくりと観察していただいたが、後藤監督は「付属出身の部員に期待するところは大きい」と以前と比べて大きく門を開いて下さっている。その言葉に甘えていい加減な気持ちで送り出すわけにはいかず、入部するからには「最後までやりきる」覚悟は当然である。

8月6日

暑い時でも「食べる」 補食が再開



昨年秋から始めた「食べること」へのこだわり。夏休みに入ってから寮生部員は保護者が協力して、近隣の弁当屋から毎日11時頃に弁当が届くようになった。今までコンビニで好きなモノを口にしていたが、大きな進歩である。

また春から3年生の意向もあり、一時中断していた補食が再開された。食べやすいように今回は近隣のハッピー六原というスーパーで特別食を準備してもらい、部員は15時半頃に設定された小休憩でおにぎりをほおぼっている。今年の夏は暑い。食べない者は乗り切れない。

8月6日

遅まきながら、部内宿題提出でチェック



例年夏休みの中盤～後半になるとスタッフから部員にかけられる言葉は「宿題やってるか」であり、部員は即答で「はい」。しかしこれがとんでもなく、2学期が始まるや課題未提出で放課後居残りを命ぜられる部員が出てくる。9月の日が短くなる時期に、2次戦後半を迎えるが、学業優先とはいえ、その時期に練習に遅刻されると痛い。

そこで遅まきながらではあるが、部内で一斉宿題点検日を設定し、顧問でその進捗状況をチェックした。本日5日の目標は達成率50パーセント。最終的には8月25日が100パーセント完成で、未達成者には1次戦初戦のベンチ外スタートが明言されている。

8月4日

新チーム12試合で依然負け知らず



7月28日から始まった新チームの練習試合は12試合が終わった現段階で11勝1分で、依然として負け知らず。夏のマウンドを経験した玉田の登板は3試合であり、まだまだ実力を語る段階ではないが、7月の近隣公立との試合だけでなく、8月に入っても西脇工、箕島と全てダブルで連勝している。

例年実施される東海関東遠征では、常葉菊川、横浜が代表校となったが、日大三島、東海大菅生、桐光学園など実力校が目白押し。いよいよ真価が問われるときが来た。

※写真提供 ベースボール倶楽部

硬式野球部 TOP PAGEへ

2016年7月度のトピックス

第98回全国高等学校野球選手権京都大会 特集

7月31日

「1位で駆け抜ける」決意 秋季大会抽選会



8月27日から始まる秋季大会1次戦の抽選会が桃山高校で行われ、新主将の長谷川弘が石川部長とともに参加した。歴代主将から「抽選札は左手で引け」と受け継がれているようで、左手で引いた番号は9番。同じブロックに京都国際、東山、鳥羽が集まる激戦ブロックに入った。

抽選結果を見た部長も、連絡を聞いた里井監督も思いは同じで、「1位での駆け抜けを」と長谷川主将に言葉をかけたが、「当然です」と返ってきた。

7月31日

ふる里コーチ第2号は「伝家の宝刀」持ち主



本日からふる里コーチとして大学硬式野球部2回生で学生コーチの徳永早俊OBが練習に合流した。兵庫県小野市出身で、現役時代は左投手。エースに本格派上山がいたため、公式戦ではなかなか登板の機会には恵まれなかったが、なかなか味のある投球をしていた。特に牽制球の巧さは絶品で、1塁走者を数々刺した。その流れは1年後輩の山下に受け継がれ、秋季大会では実に12回牽制死を記録した。今回もこの徳永コーチから現役部員が何を吸収するか、見物である。

7月28日

新チーム初の練習試合、連勝スタート



新チームの練習試合がスタートした。先の選手権京都大会では2年生4名がベンチ入りしていたのみだったが、それを見越して4月からは日曜ごとにB戦を行ない、スムーズなスタートが切れるようになってきた。

新チームの特徴は突出した選手はいないが、各ポジションに複数名のメンバー候補がいることと、マウンドに上られる投手陣が数名いることであり、機動力も近年では最もある。この日は地元校相手に連

勝したが、目標をどこに置き、どれだけ努力するか、競争は激化してきた。

7月24日

当然、敗戦帰着で即新チーム練習スタート



選手権京都大会は準決勝で敗れたが、「負けたチームは球場内にいつまでもおらず、即退散。そして新チーム練習開始」という伝統は生かされた。

グラウンドに戻って3年生を慰労し、新旧チームの引き継ぎこが行われた。新主将には長谷川弘、副主将には藤原彦貴とこの夏を経験したふたりが新幹部に指名され、即新チーム練習が始まった。秋季大会は1ヶ月後にスタートする。休んでいる時間などない。練習試合は今年28日から始まり、秋季大会まで東海関東遠征を含めて32試合が組まれている。

7月15日

大学生OBの協力、オール立宇治で一丸!!



試合の偵察は例年部員が交代で行っているが、まだ大会序盤のため、学校は普通授業。自チームが試合はなくても、相手チームを観察できればしておきたいもの。そこで現役部員の役に立つならばと動いてくれたのはOBの大学4回生。「自分たちも現役の時には大学生OBに助けて貰いましたから」と実に爽やか。

この日は3人で太陽か丘へ繰り出し、いろいろな角度から試合を観察し、三室戸グラウンドへ情報を持って帰ってきてくれた。実に有り難い。

7月11日

雨天順延で1年部員10名が急遽公欠



選手権京都大会太陽が丘球場は例年南部の学校で運営されているが、立命館宇治の球場当番は10日の日曜日であった。ところが大会初日が雨天順延となったため、スライドで補助員10名は急遽月曜日にお手伝いに当たらなければならなくなりました。

この日朝7時に球場に集合した10名はチケット係、SBO担当、FAX係、入退場門担当とそれぞれの役割を担った。

7月10日

森田主将、開会式で準優勝杯を返還



選手京都大会開会式が行われた。前年度準優勝の立命館宇治は2番目の行進。司会者から「前年度準優勝校、立命館宇治高校」と紹介されると、スタンドから大きな拍手が起こった。

また式典の中では森田主将が京都府高野連会長に準優勝杯を返還し、レプリカを受け取った。今年もまた快進撃をみせるか。初戦は14日である。

7月9日

開会式順延で突然の大役、早川光一



選手京都大会開会式が雨天順延となった、例年開会式でのプラカード先導は龍谷大平安の女子生徒であったが、今日の順延決定を受けて、各校よりプラカードを持つ部員を選出することになった。立命館宇治ではスタッフの話し合いの結果、3年生の早川光一が推薦され、部員の承認を得た。直前まで夏の強化メンバーでありながら最後にメンバー外となったが、里井監督から献身的な姿勢は評価されていた。背番号が発表になった昨日から裏方に徹していたが、思わぬ形で登録メンバーとともに行進することに。

この日は部長とともに打合会に参加し、歩く練習も行った。

硬式野球部 TOP PAGEへ

第98回全国高等学校野球選手権 京都大会 速報

7月24日(日) 準決勝 対京都翔英 (わかさスタジアム)

投打に圧倒され、コールド完敗

- 京都翔英 105 300 0=9
- 立命館宇治 000 001 1=2 (7回コールド)
 - 【立】田中覺、玉田、畑上-百田
 - 【京】瀧野-石原
 - ▼3塁打 新田(京)
 - ▼2塁打 長谷川(立)森元(京)

【寸評】

立命館宇治は立ち上がりから強打の京都翔英に圧倒され、反撃も空しくコールド敗退した。

立命館宇治は田中覺、玉田が5回までに長短13安打を打たれ、防戦一方となった。

攻撃では1回に無死から、2回には1死から走者を出したが揺さぶりをかけられず、大差がついてから6.7回に犠牲フライで1点ずつを返すにとどまった。

ノーシードで挑んだ今大会であったが、ロースコアの試合を一丸となって駆け上がり、秋・春の1次戦敗退という屈辱を晴らし、ベスト4まで進出したが、力及ばなかった。



写真は6.7回を連続三者で退けた畑上永杜(3年)

7月22日(金) 準々決勝 対京都廣学館 (わかさスタジアム)

夏初登板の玉田が圧巻の投球

- 立命館宇治 000 000 100 1=2
- 京都廣学館 000 001 000 0=1 (延長10回)
 - 【立】玉田、田中覺-百田
 - 【京】岩倉-赤坂
 - ▼3塁打 長谷川(立)
 - ▼2塁打 中原(立)

【寸評】

立命館宇治は今大会初先発の2年・玉田が素晴らしい投球を披露し、強打のシード京都廣学館を1失点に封じ、逆転を呼び込んだ。

1点を先行された立命館宇治は7回先頭の長谷川が右中間3塁打で出塁し、森田の内野ゴロで生還し、同点とした。10回裏は2死1.3塁からの内野ゴロが相手失策を誘い、勝ち越し点を奪った。

10回裏から登板したエース田中覺は1死2.3塁と一打逆転サヨナラの絶体絶命のピンチを迎えたが、三直併殺で逃げ切った。

玉田は8安打を打たれたが全てシングルで、連打を許さなかった。

今大会続くロースコアを制したが、5回まで毎回得点圏に走者を置きながら、得点できなかったことが後半の苦戦につながった。

立命館宇治は24日(日)準決勝進出した。



写真は今大会初登板で好投した玉田大剛(2年)

7月20日(水) 4回戦 対鳥羽 (わかさスタジアム)

番 耐えに耐えて、終盤に集中打!!

○ 立命館宇治 000 000 012=3

● 鳥 羽 000 000 000=0

【立】田中覺-百田

【鳥】杉沢-大友

▼3塁打 杉沢(鳥)

▼2塁打 樋浦、藤原、中原(立)

【寸評】

立命館宇治は立ち上がりから鳥羽のエースを攻めあぐね7回まで0行進。2安打2残塁で3塁すら踏めない状況で終盤を迎えた。

8回表は6番・藤原が三遊間を抜いて出塁。犠打と内野ゴロで2死3塁とし、9番・田中覺がしぶとく三遊間を抜いて先制した。

9回には5番・樋浦が左翼線、6番・藤原が右中間、7番・中原が左越えに3連続二塁打を放ち、貴重な追加点を挙げた。

先発した田中覺は9回を投げて被安打3、三四球で唯一6回に二死満塁のピンチを

迎えたが、左翼・樋浦のファインプレーで切り抜けた。

今大会、田中覺は3試合で25回、自責点2点で防御率0.72。

立命館宇治は22日(金)準々決勝第3試合でシードの京都廣学館と対戦する。



写真は貴重な2点目のタイムリーを放った藤原彦貴(2年)

7月18日(月祝) 3回戦 対京都すばる (太陽が丘球場球場)

番 百田の先制3ラン皮切りに15安打猛攻

- 京都すばる 020 000=2
- 立命館宇治 305 031=12xx (6回コールド)
 - 【京】 林、コールマン、北村-松岡
 - 【立】 田中覺-百田
 - ▼本塁打 百田(立)
 - ▼2塁打 西尾、林、伊藤(京)長谷川、寺田、中原(立)

【寸評】

立命館宇治は初回、1番・長谷川、3番・寺田の安打で1死1.2塁のチャンスを迎えると、4番・百田が左翼席に豪快に3点本塁打を放ち先制。2回戦から硬かった呪縛から一気に解放された。続く3回には1死から寺田の中越2塁打を口火に、5番・樋浦の右前打、6番・藤原の右前打、8番・中原が鋭く左中間を抜き、9番・田中がしぶとく1.2塁間を抜いて5点を追加した。

5回には2死から3安打を集めて3点、6回には1死満塁から寺田が三遊間を抜いてコールド勝ちとなった。

先発した田中覺は身体のキレを欠き、2回には2死から連続2塁打を打たれるなど2点を献上。大量得点後も走者を許したが、粘りの姿勢は見せた。

立命館宇治は4回戦で前年度優勝校の鳥羽との対戦が決定。昨年の決勝戦と同一カードが早くも実現する。なるか、リベンジ。



写真は大会14号先制3ランを放った百田風太郎(3年)

7月16日(土) 2回戦 対府立工 (あやべ球場)

エース田中覺10奪三振の粘投で延長制す

- 府立工 000 000 000 0=0
- 立命館宇治 000 000 000 1=1x (延長10回)
【府】牧-今福
【立】田中覺-百田
▼2塁打 松原(府)寺田(立)

【寸評】

立命館宇治は延長10回裏1死から1番・長谷川が四球で出塁し、2番・森田が送った後、3番・寺田が初球を左越えに2塁打を放ち、0行進に終止符を打った。

先発した田中覺は10回を投げて、3塁を踏ませたのは一度のみ。被安打3、四球2、奪三振10のほぼ完璧な内容でと粘りの投球を見せた。

一方攻撃陣は相手エースの変則にタイミングが合わず、5安打のみ。フライアウトは13を数えた。

立命館宇治は明後日18日、太陽が丘球場で一昨年度の準優勝校・京都すばると対戦する。



写真は10回完封の田中覺(3年)

大会登録メンバー

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	田中 覚	3	下鴨	少年野球 百々ユニオンズ
2	捕	百田風太郎	3	精華南	ボーイズ 枚方
3	一	藤原 彦貴	2	中央 (福井)	ボーイズ 鯖江
4	二	森田 皓介	3	高安 (大阪)	ボーイズ 大阪八尾
5	三	中原 優歩	3	立命館宇治	ボーイズ 大阪鴻池
6	遊	長谷川 弘	2	田辺 (大阪)	ヤング 堺イーグルス
7	左	樋浦 大雅	3	精華西	ボーイズ 奈良葛城
8	中	寺田 泰清	2	御所 (奈良)	ボーイズ 奈良葛城
9	右	松原 大地	3	立命館宇治	中学野球
10	投	畑上 永杜	3	串本 (和歌山)	ヤング 熊野BBC
11	投	玉田 大剛	2	泉ヶ丘東 (大阪)	ヤング 大阪狭山
12	捕	藤岡 廉	3	音羽	少年野球 南シニアフリーダム
13	内	蒲田 康平	3	一宮北 (兵庫)	中学野球
14	内	中山寛太良	3	立命館宇治	中学野球
15	内	西本 啓真	3	枚方四 (大阪)	中学野球
16	外	田中 滉大	3	和田	ボーイズ 舞鶴
17	外	亀田 高志	3	緑が丘 (奈良)	ボーイズ 生駒中央
18	投	吉原 章汰	3	大住	シニア 南京都
19	捕	上野 雄大	3	東陽 (大阪)	シニア 大阪鶴見
20	内	清水 克敏	3	立命館宇治	ボーイズ 大津瀬田

硬式野球部 TOP PAGE^

2016年5月度のトピックス

5月18日

もはや完全に「定位置」の2位、クラブ対抗



好天に恵まれ、体育祭が実施された。例年のことながら応援団としての協力で立候補する部員はいないが、前日準備などでは大きく貢献してくれた。

当日の盛り上がりはなんと言ってもクラブ対抗リレー。かつて10年連続で優勝したこともあったが、サンガユースが加わってからは接戦に。それでも首位をキープしていたが、ここ2～3年はすっかり立場が逆転。2位が定位置となってしまった。この日も3位以下には差をつけるものの、1位のサンガには一度も迫ることができなかった。応援席の盛り上がりは一番なのだが。

5月17日

生まれて初めて見たベースボール



写真のセーラー服の女子生徒はタイのカセサートハイスクールからの短期留学生。タイにはクラブ活動がなく、またベースボールを見るのも生まれて初めてだとか。寮で生活しているが日本のベースボールを見て、是非ともタイへ帰って紹介したいとこの日グラウンドを訪問した。

フェンスの外なら自由に動き回って良いよと言われ、投球練習場や室内練習場にも興味津々。最後はスタッフルームを訪れて「どうもありがとうございました」と丁寧に敬礼を述べてグラウンドを後にした。

硬式野球部 TOP PAGE

2016年4月度のトピックス

2016年度春季京都府高等学校野球大会1次戦 速報 16.4.24更新終了

4月29日

グラウンドに響き渡る久々の「卯瀧節」



B戦の指揮をとるのは卯瀧逸夫前監督。この春から非常勤のピッチングコーチを務めているが、特に1年生投手陣に好素材が多く、グラウンドへの登場頻度も日増しに多くなってきている。そしてB戦では半年ぶりにユニフォームに身を包んだ。

「行動が遅い」「円陣になってない」「挨拶の時は両かかとをぴったりつけろ」とまずは野球以前のお説教から。そして試合が始まるやあれこれと矢継ぎ早に指示が出たが、レギュラークラスには厳しく、新生はミスを目に見てのびのびと」というスタイルはそのままだ。

4月29日

サバイバル開始、B戦20試合がスタート



例年4月からB戦が数試合組まれるが、今年はGWから6月末までほぼ毎日曜日の20試合が組まれた。「GWの間はできるだけ3年生の力を見極めたい」という思いと同時に、「一日も早く未来の中心選手を発掘し育てたい」という方針からだ。

この日は1.2年生26名が貸し切りバスで東山総合グラウンドへお邪魔し、2試合。2年生には春季大会のレギュラー3名も含まれるが、その他は全員実質のデビュー戦。あまり勝敗に拘るつもりはないが、3年生も含まれていた東山Bに連勝のスタートを切った。

4月28日

OBの活躍が大学HPでも紹介



大学のHPで「体育会硬式野球部 立命館宇治高校から立命館大学へと進学して」というタイトルで昨年の4回生主力3名が紹介されている。2年春にセンバツを経験した学年で4回生の昨シーズンは春は古川昂樹OBが首位打者をはじめ三冠王、秋は小林真人OBが首位打者と春秋連続OBが首位打者に輝くという活躍ぶりであった。古川OBは社会人野球の名門・大阪ガスへと進み、すでにクリーンアップの一角を担っているとか。後輩たちの励みになってほしい。

※大学での紹介ページは[こちらから](#)

4月28日

OBのスポーツ健康科学部の院生が講演



硬式野球部で活躍し、現在スポーツ健康科学部の院生・林俊之介OBが1年普通コースの一泊研修2日目に講師として後輩たちに大学での学びを語ってくれた。立命館中学から「野球をやるなら宇治へ」と門をたたき、高校では1年夏からベンチ入りした。その後は怪我に悩まされた経験から、トレーナーとなるべくこの学部を選択し、現在は秋の留学に向けて準備中とか。高校生たちに準備しておくべきこととして「英語の大切さ」も話してくれた。

4月21日

雨の日の工夫、1年生のみで座学



結局1年生は例年通りの25名の入部があり、3学年で76名の所帯となった。普段は専用グラウンドで目一杯練習できるが、この日のように雨となると、室内練習場で75名の練習は不可能。そこでこの日は里井監督が自ら学校へ出向き、1年生を対象に1時間ミーティングを行った。

もともとこの時期は1年生については、まずは高校生活に慣れるため、練習を早い目に切り上げる配慮をしており、この日もミーティングのみで学校解散となった。部員のひとは「早く帰って宿題をします」とのことであったが、時間を少しでも有効に使うて貰いたい。

4月2日

練習試合後に審判員から直接指導



今年からプロ野球で話題になっているコリジョン(衝突)ルールについて、高校野球ではすでに浸透しているとしつつも、捕手は長年の習慣で、本塁でのクロスプレーの際にブロックの動作に入ってしまう。理屈はわかっているが、身体が反応してしまうというのが実情だが、本塁でのプレーだけに余計な動作が致命傷となりかねない。

そこで本日の練習試合では試合後に審判員に本塁上での捕手の位置取りやタッチの行き方について詳しく説明を受けた。里井監督をはじめスタッフも加わり、納得いくまで質問を繰り返して勉強した。

平成28年度

春季京都府高等学校野球大会 速報

1次戦

4月24日(日) 決勝 対洛星 (立命館宇治高校グラウンド)

またも機能しない打線、終盤に逆転喫す

○	洛 星	000 001 400 = 5
●	立命館宇治	120 000 000 = 3
	【洛】	佐藤、岩本-小倉
	【立】	田中、玉田-百田
	▼2塁打	酒井、岸野(洛)中原、藤原(立)

【寸評】 立命館宇治は序盤に3点を先制する絶好のスタートを切ったが、中押しが奪えず、終盤に逆転を喫した。1.2回に3安打で3点を先制した後は、残り7回で1安打、2四死球の走者しか出せなかった。この1ヶ月間下降気味であった打線はこの春季大会で上昇することはなかった。

先発した田中は6回まで2安打に押さえていた洛星打線に7回につかまり、5安打を集中されてあっさり逆転を許した。

立命館宇治は秋に続いて春も1次戦敗退となり、ノーシードで夏を迎えることとなった。



先制打を放った百田風太郎(2年)

4月17日(日) 2回戦 対洛東 (立命館宇治高校グラウンド)

チャンスメーカーのみ、ポイントゲッター不在

●	洛 東	000 001 000 = 1
○	立命館宇治	000 110 00X = 2X
	【洛】	糸川-大隅

【立】田中-百田

▼3塁打 百田(立) ▼2塁打 樋浦(立)°

【寸評】 立命館宇治は初回から5回まで毎回先頭打者が出塁してチャンスを作りながら、なかなかビッグイニングができない重苦しい雰囲気。4回に4番・百田、5番・樋浦の連続長打で先制すると、続く5回には1死2塁から1番・長谷川が中前へはじき返し2点目を追加した。終わってみればマルチ安打の長谷川。・樋浦以外では百田の1安打のみの5安打。チャンスメーカーはいるがポイントゲッター不在という典型的な試合となった。

先発した田中はやや制球に苦勞する場面もあったが、終わってみれば被安打3、自責点0の完投で公式戦初勝利を記録した、



2安打1打点の長谷川弘(2年)

登録メンバー

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	田中 覺	3	下鴨	少年野球 百々ユニオンズ
2	捕	百田風太郎	3	精華南	ボーイズ 枚方
3	一	藤原 彦貴	2	中央 (福井)	ボーイズ 鯖江
4	二	森田 皓介	3	高安 (大阪)	ボーイズ 大阪八尾
5	三	中原 優歩	3	立命館宇治	ボーイズ 大阪鴻池
6	遊	長谷川 弘	2	田辺 (大阪)	ヤング 堺イーグルス
7	左	寺田 泰清	2	御所 (奈良)	ボーイズ 奈良葛城
8	中	村井 崇祥	2	勝山 (大阪)	ボーイズ 忠岡
9	右	樋浦 大雅	3	精華西	ボーイズ 奈良葛城
10	投	玉田 大剛	2	泉ヶ丘東 (大阪)	ヤング 大阪狭山
11	投	畑上 永杜	3	串本 (和歌山)	ヤング 熊野BBC
12	捕	腰岡 廉	3	音羽	少年野球 南シニアフリーダム
13	内	蒲田 康平	3	一宮北 (兵庫)	中学野球
14	内	西本 啓真	3	枚方四 (大阪)	中学野球
15	内	森山 樹	2	四條畷学園 (大阪)	ボーイズ 生駒
16	外	太田 東吾	2	東生野 (大阪)	ボーイズ 大阪八尾
17	外	松原 大地	3	立命館宇治	中学野球
18	投	吉原 章汰	3	大住	シニア 南京都
19	外	亀田 高志	3	緑が丘 (奈良)	ボーイズ 生駒中央
20	捕	上野 雄大	3	東陽 (大阪)	シニア 大阪鶴見

2016年3月度のトピックス

3月28日

田中コーチが4月から岐阜県の中学へ



この2月間お世話になった田中遼太OBがこの日最後の指導となり、最後に部員に挨拶した。教育実習以降、中学野球部を週2回指導していたが、里井監督から空いた日には高校へもという要望を要請を快く引き受け、後輩たちの指導に当たってくれた。

2度目の選抜大会の時には内野の控えとしてベンチ入り。大学では保健体育の教員免許を取り、4月より岐阜県の中学で講師として勤務する。いずれは京都でという思いもあるが、「とりあえず1年は頑張ります」と挨拶してグラウンドを後にした。

3月25日

洛南交流順位決定戦で1位に勝ち名乗り



昨秋から行われていた洛南交流試合の1~4位順位決定トーナメントが行われた。準決勝にあたる第1試合では西城陽に競りがち、午後の決勝戦へ進出。決勝では予選リーグを1年生だけで全勝で勝ち上がったことからバッテリー以外は下級生を起用。京都廣学館との対戦となった決勝戦では上級生が裏方に徹し、1年生をサポートする形となったが、下級生はその思いに見事応えて勝利した。

昨年は近畿大会~センバツのために参加できなかった交流試合であったが、一定の成果は発揮できた。

3月25日

新入生19名が練習に合流。最終的には23名



この春も連盟規定により25日から新入生が練習に参加した。合格発表時には10数名であったが、その後問い合わせで増え続け、現段階で把握しているのは23名。そしてこの日からそのうち19名が練習に参加した。

午前中はトレーナーから身体の動かし方を座学で習い、午後からはウォーミングアップの基本、そして1時間ほど室内練習場でティーバッティングを行った。

また合格発表時に注文したチームグッズも午前中に届き、それぞれが手にした。

3月24日

お世話になったお二人の先生が離任



硬式野球部でお世話になってきたお二人の先生が本日終業式後の離任式で挨拶をした。

東先生(写真左)は顧問としてこの1年間奮闘。津久見高校主将であった自称「現役」で、グラウンドではノッカー、打撃投手、審判と精力的に関わって下さった。春から島根県の石見智翠館で教鞭を執る。

水口先生(写真右)はかつて野球部の顧問であったことから以降もずっと朝練習を見て下さっていた。本校の卒業生で高校時代はレスリングで3年間無敵の全国チャンピオン。そのトレーニング方法は独特で「朝練の鬼」であった。4月から文部科学省への赴任となる。

お世話になった二人に感謝するとともに、前途を祝いたい。

3月21日

卯瀧前監督を非常勤投手コーチに



里井監督のプレッシャーにならないようにと昨年8月いっぱいまでグラントを去り、特別な事情以外は現場には姿を現さなかった卯瀧前監督であるが、このたび現スタッフから「非常勤投手コーチとして週に一度はグラウンドで指導していただきたい」とお願いし、快諾いただいた。

石川部長から保護者会長、学校執行部にも正式に話をし、「ありがたい。是非ともお願いしたい」という言葉もいただいた。ユニフォームは着ることはないが、ブルペンで投手陣を指導する姿を目にすることになる。

3月20日

チャンスは上級生からなのだが.....



春の練習試合1試合も流れることなく、順調に進んでいるが、この時期の試合は勝敗云々ではなく、春から夏へ向けてのメンバーの発掘。昨年までの卯瀧前監督がそうであったように、里井監督も「まずは頑張ってきた上級生から優先的に」と積極的にチャンスを与えてる。しかしどうも貰ったチャンスをなんとしてもモノにしようという気迫が感じられない。成長株の1年生も試したいが、上級生優先という今の段階を部員はどうとらえているか。「けがをした」「張りがある」と早々とリタイヤ宣言する者もあり、見ていて歯がゆい。

3月12日

里井監督のピンチにOBが助っ人引率



里井監督がけがをし、この週末ではノックが打てないため、若いOBがそれならと遠征でのノッカーを務めるべく、名乗りを上げてくれた。25歳で現在は大阪でスポーツ店を経営する小栗晋吾(旧姓・鄭)OB。高校時代は2番サードで最後の夏は準優勝。埼玉西武に在籍する金子OBと同学年である。大学では最終学年では副主将と代打要員として活躍した。現在は大阪でスポーツ店をやっているが、監督のピンチに一番に駆けつけてくれた。

※写真一番手前

3月12日

恒例の和歌山遠征をA.B 2チームで参加



3月の2週目の週末に実施している恒例の和歌山遠征がこの日から始まった。和歌山県に中京大学OBの指導者が集って交流するのが目的の親善試合だが、卯瀧前監督が去った後も、スタッフが本部へお願いし、今年もA.Bの2チーム参加を快く引き受けていただいた。今年は51名の部員をAチーム22名、Bチーム29名に分けた。特にBチームには上級生にチャンスが回るように配慮。またAチームにはこの冬の伸び盛りの1年生が実践でどれだけ通用するのか里井監督自らの目でチェックされた。

硬式野球部 TOP PAGEへ

2016年2月度のトピックス

2月13日

今年は少なめ?? 入部説明会に14名が参加



例年、高校入試の合格発表当日に行われる入部説明会が今年も実施された。参加したのは一貫生を含めた14名で、近年この日で20名を越えていた状況を考えてやや少なめか。この日は参加できなかったが、他にも野球経験者は何名か合格しているとの情報もあり、もう少し増える見込み。

里井監督がこの説明会で初めて挨拶し、部長からは春休みからの練習参加手続き、クラブの運営方針について説明があった。そして3月25日の練習初参加の日には全てのグッズがそろそろようチームグッズの採寸も行われた。

2月11日

成長はいかに?? 卯瀧前監督が久々指導



卯瀧前監督が昨年11月以来グラウンドを訪れ、久しぶりに投手陣の投球に目を光らせた。冬の間もずっと投げ込んできたやり方は里井監督も受け継いでおり、岩崎副部長とともに「今はどの投手も球速が上がり、春が楽しみ」な状態であるが、投手育成が評判であった卯瀧氏にさらにワンポイントアドバイスを求めたいところ。

グラウンドに到着するなり、2年生の投手に次々と声をかけ、アドバイスを行った。

2月11日

高校入試週間を利用し、実践練習開始



長く地道な基本トレーニングを繰り返してきたが、今週は高校入試週間で祝日を挟んで3日間授業がなく、朝から終日練習に取り組めるため、気温が上がったこの日は午後から紅白戦形式のシート打撃を実施した。特に食事とトレーニングを意識した取り組みで投手陣は軒並み球速がアップしており、練習試合の解禁が待ち遠しい。今のところ本格的な打撃練習が行われていない中で投手優位ではあるが、誰がこの中から抜け出すのか興味深い。

2月11日

OBが指導する中学野球部が練習見学



立命館宇治時代に主将として活躍した伊崎亮介OBが現在顧問を務める京都市立中学の野球部の面々を「野球の勉強をさせたい」と引率した。祝日の今日は午後から気温も上昇し、グラウンドに到着後はベンチに腰掛けて昼食後、ノートを取り出して熱心に見学。

高校野球の指導者が途中学生を直接指導することはできないが、伊崎OBと里井監督は大学の先輩後輩の仲。この中から高校野球への決意を新たにする者が一人でも多く出ることを願いたい。

2月11日

最後の炊き出しは手作りカレー



新年早々に行われた炊き出しの時に「プロパンガスが余ったとのことで、それ以降も炊き出しを継続。本日が最後となったが、メニューは誰もが好むカレーライスであった。通学生部員は自宅から白米だけを持参。寮生は保護者が手分けしてご飯を持参し、昼食時に振る舞われた。この炊き出しを楽しみにしている部員は多く、冬はなかなかグラウンドに足を運べなかった保護者はスタッフともコミュニケーションが図れると効果は二重丸以上である。

硬式野球部 TOP PAGEへ

2016年1月度のトピックス

1月29日

若いOBも里井監督へ支援体制



写真は学校練習の日に空き教室で栄養の講義をする金城岳野OB。大学院で学んだことを現役部員にも還元したいと栄養について部員を2グループに分けて話をしてくれた。金城OBは6年前の2回目のセンバツ出場時にはまじめな人柄が買われて開会式のプラカードを持って行進を先導した。自らも教員希望で、貴重な経験になったと話す。

最近若いOBがグラウンドへ顔を出し、自分が役に立つならと里井監督と相談して指導に当たってくれることが多くなった。良い傾向である。

1月22日

奈良前主将が連盟から優秀選手表彰



22日に京都府高野連の報告総会が行われ、会議に先立ち、連盟からの表彰が行われた。優秀選手賞は3つの公式戦での準優勝以上のチームが対象となり、各校の推薦を受けて受賞者が決まる。立命館宇治は秋と夏の準優勝の実績から奈良主将が受賞した。この表彰制度が始まって12年で、立命館宇治の部員の受賞は昨年の村尾主将に続いて、2年連続7回目となる。

この日はともにしのぎを削った龍谷大平安、鳥羽も立命館らの主力も久々に顔を合わせ、ともに大学野球での話に花が咲いた。

1月17日

2年連続、英語で部員がファイナリストに



1月21日に行われる1年生の英語暗唱コンテストに今年もファイナリストに硬式野球部員が選ばれた。昨年、辰野亮大が選ばれたのに続き、今年村井崇祥が「キング牧師の演説」で出場する。教科担当からは「昨年10月頃から授業態度にも積極性が出てきた」とのコメントも。

また2年生の英語スピーチコンテストでは惜しくもファイナル進出はならなかったが、吉原章汰がセミファイナルで大健闘。内容は尊敬する祖父との野球との思い出で、自分も野球に頑張りたいというもの。英語科でもある東顧問からは「ファイナルに選

ばれてもおかしくなかった」との評価があった。
※写真は村井崇祥

1月10日

恒例の新年炊き出しで、保護者へ挨拶



新年恒例の保護者会の炊き出しが行われた。もともとは鏡割りのお餅を使ってお善哉をというスタートであったが、近年は豚汁とお善哉が定番となっている。2年生の保護者が朝から準備し、お昼前から1年生保護者や3年生保護者もグラウンドに顔を出し、バックネット裏は大盛況。部員の中には美味しい汁物にお変わりに並ぶ者も。

最後にはスタッフと保護者が新年の挨拶を交わすことになっており、里井監督からは「精一杯頑張ります」と、また保護者会長森田氏からも「できることは全力で協力させていただきます」と述べられた。

1月7日

目標は大きく甲子園での付属校対決



今年3学期が始まる前日の7日、宇治の中高全教職員、協力企業が一同に会しての新年祝賀の集いが、本校食堂で昼食を兼ねて実施された。冒頭の挨拶で学園の吉田総長は

、この間の立命館のめざましい躍進に触れ、また今後の期待として「いよいよ春には滋賀で立命館守山の硬式野球部がスタートする。もともと強豪である宇治と甲子園で立命館付属校対決の日が来ることを期待したい」と述べられ、高校の硬式野球部への熱い思いがスタッフに伝わった。

会食が始まると練習を抜けてスーツに身を固めた里井監督が総長～専務理事～常務理事～校長と挨拶に回った。

※写真は吉田総長から激励を受ける里井監督

1月4日

三が日終え、最も早いスタート



今年は年末の練習終了を一日早めて29日を最終日としたが、年始は昨年通り4日に始動。寮生部員が6日からの合流となるが、出入りの業者によれば知っている限り最も早いスタートとか。年末には里井監督から練習の負荷を上げると宣言されており、春に向けてどこまで目標を掲げて頑張れるか。

年末に保護者会が準備してくれた御神酒と塩をポジションに分かれてまき、早速練習に入った。

[硬式野球部 TOP PAGEへ](#)